

経営者に関する方針

社長（西川）の仕事

- (1) 高収益の安定的な事業構造を作ること
- (2) 時代や環境の変化に応じて自社の商品ビジネスモデルを変化させる
- (3) 販売計画と利益計画をチェックする事、会社の数字を見ること（一倉定）
- (4) 戦略は社長が作る、社長しか作れない
- (5) 何が何でも長期的に勝ち残ること
- (6) 社員が「プライベートより会社に行った方が楽しい」と思える環境を作ること
- (7) 従業員さんを喜ばせに行くぞっと会社に行く。社員が変わるなんてとんでもない。俺が変わればいい。
- (8) 経営計画書を作成すること

経営者の真価を決めるものは、危機に立った時に、これにどう対処するかである。

このような時には、判断力や統率力もさることながら、決断力こそ最終の鍵を握るものなのだ。

決断力のない社長は、他にどんな資質を持とうと、才能があろうと、それだけで失格である。

決断というものは、外部情勢の変化が、会社に危機をもたらす時に行われるものだ。
一倉定

社長は社員からどんな不愉快なことを言われてもニコニコして聞かなければいけません。つい不快な顔を見せると、社員は顔色を伺い本当のことを言わなくなります。

社長が社員を大切にしている経営ではなく、社員が会社から大切にされている経営。社員が会社から大切にされているという実感が持てる経営

良い報告は笑顔で聞く。悪い報告はもっと笑顔で聞く

「笑顔は社長の仕事」であり、「笑顔は社長の能力」